

第2学年1組 道徳科学習指導案

令和5年11月10日（金）5校時

指導者 教諭 平井 貴大

児童数 12人

場 所 2年生教室

1 主題名 じぶんらしく 内容項目【C 公平、公正、社会主義】

2 教材名 「帰り道で」（「種をまこう」公益財団法人 人権擁護協力会 発行）

3 主題設定の理由

(1) 児童の実態

この時期の子ども達は、自分と異なる考えを受け入れ、友だちの立場を理解することは、まだ難しい。

しかし、学級生活を共にしながら、遊んだり助け合ったり経験することを通して、友達のよさを強く感じることができる。この段階では、身近な友達と仲良く活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

本学級の児童は、大変活発で、活気のある雰囲気がある。男女ともに分け隔てなく遊んだり学習したりできており、一見「女だから」「男だから」といった偏見はないように見える。しかし、そんな中でも時々自分なりの価値観に合わない友だちに対して、強く言ってしまうような場面が見られることがある。

児童の実態を把握するためにアンケートを実施した。「女らしく・男らしくしなさいといわれますか？」という問いに関しては、ほとんどの児童はあまり言われたことはないという結果だったが、3名の児童は、日常の中で言われる経験をしているという回答をしていた。「女らしく・男らしくしなさいと言われたらどうですか？」という問いに関しては、過半数以上の児童が「少しいや」と感じると回答した。また、児童にいくつかの言葉を「男」「女」「どちらでもない」という3つの項目に分けさせた。その結果、「男」の印象がある言葉として、「虫がすき」「かっこいい」「おもしろい」「つよい」、 「女」の印象がある言葉として、「虫がきらい」「やさしい」「おとなしい」「きれい」という言葉をほとんどの児童が分類した。この結果から、言葉の中には、「男」「女」など、偏ったイメージの言葉があることが分かった。

(2) 題材設定の理由

今回の題材では、世の中にある偏見について考えさせていきたい。

私達の生活の中で誰しも何かを決めつけてしまいがちである。悪意はなくとも、血液型や出身地などによっての決めつけが多く存在する。その集団の特徴や気質を表しているとしても、全ての人に当てはまるものではない。そのような過度なカテゴリー化は、マイナスイメージに繋がりがちとなり、相手を傷つけてしまう可能性がある。その中でも特に、「女だから」「男だから」といった性別による偏見について取り扱っていきたい。

一人ひとりの特徴は、性別によって決められるものではないこと、お互いの考え方は性別によって制限されるものではなく違いを尊重していかなければならないことを考えさせたい。

(3) 指導にあたって

導入場面では、児童に学級のアンケート結果を示す。たくさんの言葉の中から「男のイメー

ジ」「女のイメージ」「どちらでもない」に分けさせた結果を示す。その中から男女に分かれた8つの言葉について、学級のみんながどのような印象を持っているのかを知らせる。登場人物の気持ちを考えさせる場面では、ワークシートに書くことで自分の考えを明確にさせてから、心のものさしに名前カードを貼らせる。その後、自分の考えと違う友達同士で交流させ、自分と違う価値観に触れさせていきたい。また、性別によって自分の考えを制限されたときどのように思うか、事前アンケート結果で答えたことを振り返りながら、考えさせたい。

終末では、「女だから」「男だから」という偏見にとらわれず、自分らしく生きることが大切であることについて触れていきたい。

4 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題【公平・公正】）

男らしさ、女らしさなどの思い込みにとらわれた登場人物の発言について考えることを通して、性別に関係なく、好きなもの、嫌いなものは人それぞれであるということに気づき、思い込みで人を差別してはいけない態度を養う。

5 人権教育上の視点

- ・ 人はそれぞれ違って当たり前であることを知ることができる。【知識的側面】
- ・ 他者との違いを肯定的に捉え、認め合いながらよりよい人間関係を形成しようとしている。【技能的側面】

6 本時の指導

(1) 展開

◎人権教育上の配慮

過程	学習目標 (■)・ 学習活動	発問 (○) 中心発問 (☆) 予想される反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価の視点 (■)
つかむ ／	<p>■ 一人ひとりちがって当たり前ということに気づき、お互いに認め合おうとすることができる。</p> <p>1 アンケートの結果から、8つの言葉に関してどのような印象をもっているのか知る。</p> <p>2 「帰り道で」の話を聞き、話し合う。</p> <p>(1) 自分で考える。</p> <p>(2) 全体で交流する。</p>	<p>・「虫がすき」「かつこいい」「おもしろい」「つよい」「虫がきれい」「やさしい」「おとなしい」「きれい」という8つの言葉</p> <p>☆ そうちゃんがせみにびっくりしたことを、どう思いますか？</p> <p>・ へんだな</p> <p>・ へんじゃない</p> <p>【へんだな】</p> <p>・ 男の子なのに、せみにおどろいているのはおかしい。</p> <p>・ ぼくは、せみは怖くない。</p> <p>・ 周りの男の人に虫が苦手な人がいないから</p> <p>【へんじゃない】</p>	<p>・ アンケートで男女に分かれた8つの言葉について、児童自身がどのような印象をもっているのか知らせる。</p> <p>◎ 話の内容を十分理解させるために、登場人物の周りの状況を黒板に掲示する。</p> <p>◎ ワークシートに自分の考えを書かせてから、自分の考えを明確にするために、心のものさしに名前カードを貼らせる。</p>

<p>考える</p> <p>／ 広げ</p> <p>・ 深める</p> <p>／ 振りかえる</p>	<p>(3) 自分の考えと違う友達と交流する。</p> <p>(4) 全体で再度交流する。</p> <p>(5) もし男の子なのに虫が嫌いということをはんだと言われたらどうか考える。</p> <p>(6) 物語の続きを読む。</p> <p>3 決めつけにとらわれず、自分らしく生きている人の姿を知る。</p> <p>(1) 家事をする男性</p> <p>(2) 消防士の女性</p> <p>(3) 保育士の男性</p> <p>4 これまでの学習から、登場人物にどのような声をかけていきたいか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男の子でもせみが苦手な人もいる。 ・ 好きなものや嫌いなものは、男の子の子関係ないと思う。 <p>【へんだな→へんじゃない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の話を聞いて、苦手なものは人それぞれで男女関係ないと思ったから。 <p>【へんじゃない→へんだな】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の話を聞いて、周りの男の人に虫が苦手な人がいないと思ったから、男の子でせみがこわい人はおかしいと思った。 <p>○ もし、男の子なのに、虫が嫌いということとその場で「へんだね」と言われたらどんな気持ちになるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きっといやな気持ちだ。 ・ 自分も「男なのに」と言われたらいやだ。 <p>○ あやちゃんのお母さんの言葉に気をつけて聞きましょう。</p> <p>○ 次の写真をみて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家の中で洗い物をしているのは男の人だ。 ・ ピンクのおもちゃで遊んでいるのは男の子だ。 ・ 女の人でも消防士になれる。 ・ 保育園に男の先生いるよね。 <p>○ そうちゃんに何と声をかけますか。</p>	<p>◎ 相手が決まらないことがないよう、誰と交流するか、確認をしてから交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と交流して考えが変わった児童の理由を交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果を示し、「男なのに」と周りから決めつけられるということは、いい気持ちがしないことを児童に考えさせる。 <p>■ あやちゃんのお母さんの言葉から、虫が嫌いなのは人それぞれであり、女の子も男の子も関係ないことが分かる。(挙手・観察)【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの人物の仕事内容やその仕事について理由を紹介し、自分らしく生きる姿の素晴らしさを感じさせる。 <p>■ 男、女は関係ないよとそうちゃんに対して肯定的な言葉をタブレットに記入することができる。(タブレット)【技能】</p>
--	---	--	---

